

4月 = 243(1) 260(7) 265(13) 255(20)	平均 256.0	211(24)	平均 205.1
5月 = 233(6) 225(17) 205(24)	平均 221.4	7月 = 200(1) 210(9) 203(20) 220(26)	平均 208.2
6月 = 215(1) 195(7) 204(15)		8月 = 225(2) 235(9)	平均 232.4

## 高純度錫(99.99%)は50円引き上げの2,950円

三菱マテリアルは9日、高純度錫地金(99.99% = フォー・ナイン)の販売価格を50円引き上げの2,950円とした。

また、8月の月間平均価格は2,940円となった。今年の建値推移は次のとおり。

(円/キロ、カッコ内は平均)

1月 = 4日 2,750(2,750)、12日 2,850(2,820)

25日 2,800(2,810)

2月 = 1日 2,800円(2,800)、8日 2,650(2,690)

18日 2,700(2,710)

3月 = 1日 2,700(2,700) 8日 2,750(2,740)

15日 2,800(2,770)

4月 = 1日 2,900(2,900) 7日 2,950(2,940)

22日 3,000(2,950)

5月 = 6日 2,900(2,900) 12日 2,850(2,860)

20日 2,800(2,840)

6月 = 1日 2,850(2,850) 8日 2,650(2,700)

14日 2,700(2,730) 21日 2,800(2,760)

7月 = 1日 2,750(2,750) 13日 2,800(2,780)

20日 2,750(2,760) 26日 2,800(2,770)

8月 = 2日 2,900(2,900) 9日 2,950(2,940)

## 企業 日本伸銅、平成23年3月期第1四半期決算を発表 販売増と原料価格上昇などで増収増益

日本伸銅は平成23年3月期第1四半期決算を発表した。

それによると連結ベースでの売上高は前年同期比137.5%増の53億9,500万円、営業利益は3億6,300万円の黒字(前年同期は1,600万円の黒字)、経常利益は3億6,500万円の黒字(同5,700万円の黒字)、四半期純利益は2億600万円の黒字(同5,400万円の赤字)だった。

主な要因として、黄銅棒が3月末の1万6,200トン台まで上昇した後も自動車関連等が好調だったことから生産量が安定的に推移し、販売も前年同期比68.1%増となった。また銅の国際価格や国内建値は下落したものの、原料価格が前期に比べ上昇し、生産・出荷数の大幅回復や生産コスト節減で収益が大幅に改善した。

部門別を見ると、伸銅品部門では前期に比べ黄銅棒などの販売が順調に回復し、非鉄金属価格が上昇したことで合わせ、売上高は前年同期比143.8%増の48億6,700万円と大幅増となった。伸銅加工品部門では輸出处向け建設機械の需要回復で切削品等の受注や販売が伸び、売上高は前年同期比187.9%増の1億8,400万円の増加となった。非鉄金属原料部門では販売数が前年同期と比べ増加し、売上高は前年同期比62.9%増の3億4,400万円となった。

なお、連結業績予想は今期計画を上回る推移は見せているものの、第2四半期以降の経済動向の先行きが不透明なため5月22日発表のものからの修正は行わないとしている。

### 夏のセミナーを開催

#### 大阪非鉄金属商工協同組合

大阪非鉄金属商工協同組合(川岸正裕理事長、生地孝教育情報委員長)は4日、大阪市中央区のオークホテルでセミナーを開催、36名が参加した。今回は橋本アルミ取締役の橋本健一郎氏が「2011年までの銅・アルミ原料の展望」をテーマに講演を行った。

橋本氏は世界経済の現状を豊富な資料をもとに解説し、世界的な景気回復と中国の旺盛な需要を背景に原料の争奪戦が激化すると予測。地金・原料の供給不足に関しては特効薬はなく、先を見据えた原料対策を行う必要があると説いた。

